

首都圏の高速道路網の利用を最適化する料金体系の構築について(案)

首都圏では、慢性化している交通渋滞の緩和、物流の信頼性向上及び地域経済と雇用の創出等を図るため、三環状道路の整備が推進されている。平成27年度には三環状道路の整備率が約8割となり、首都圏の高速道路網には、都心部に集中する通過交通を分散させることによる交通渋滞緩和等の効果が大いに期待されているところである。

首都圏の高速道路網の機能を最大限に発揮させるためには、三環状道路も含めた高速道路網の早期全線開通とともに、道路ネットワークが最も効果的に利用される料金体系の構築が不可欠である。

しかし、高速道路の現行の料金体系は、事業主体ごとに設定されており、複雑な料金設定とともに、中央環状線や外環道よりも圏央道等の料金水準が高いことなどにより、首都圏の高速道路網の機能が十分発揮されないおそれがある。

国においては、首都圏の高速道路料金について、三環状道路の整備に合わせてシームレスな料金体系を平成28年度の導入を目途に検討を進めている。導入にあたっては、事業主体ごとの料金設定の見直しを含めた幅広い観点から、首都圏全体を見据えた検討が必要である。

新たな料金体系の構築にあたり環状道路の利用促進による円滑かつ柔軟な交通流動の実現に寄与するためには、リアルタイムでの車両走行データによる精度の高い交通渋滞予測や道路の混雑状況に応じた弾力的な料金の変動など、国土幹線道路部会中間答申に示されたように、ICTの積極的な活用が求められている。

以上を踏まえ、首都圏の高速道路網の利用を最適化する料金体系を実現していくため、次の事項について要望する。

- 1 首都圏の高速道路網の利用を最適化するため、三環状道路を含めた首都圏全体での一体的で利用しやすいシームレスな料金体系を構築すること。

- 2 新たな料金体系の構築にあたっては、精度の高い交通渋滞予測や道路の混雑状況に応じて弾力的に料金を変動させることを検討するなど、円滑かつ柔軟な交通流動を実現するため、ICTの活用を積極的に推進すること。

平成26年 月 日

国土交通大臣 太田昭宏様

九都県市首脳会議

| | | |
|----|--------|------|
| 座長 | 神奈川県知事 | 黒岩祐治 |
| | 埼玉県知事 | 上田清司 |
| | 千葉県知事 | 森田健作 |
| | 東京都知事 | 舛添要一 |
| | 横浜市長 | 林文子 |
| | 川崎市長 | 福田紀彦 |
| | 千葉市長 | 熊谷俊人 |
| | さいたま市長 | 清水勇人 |
| | 相模原市長 | 加山俊夫 |

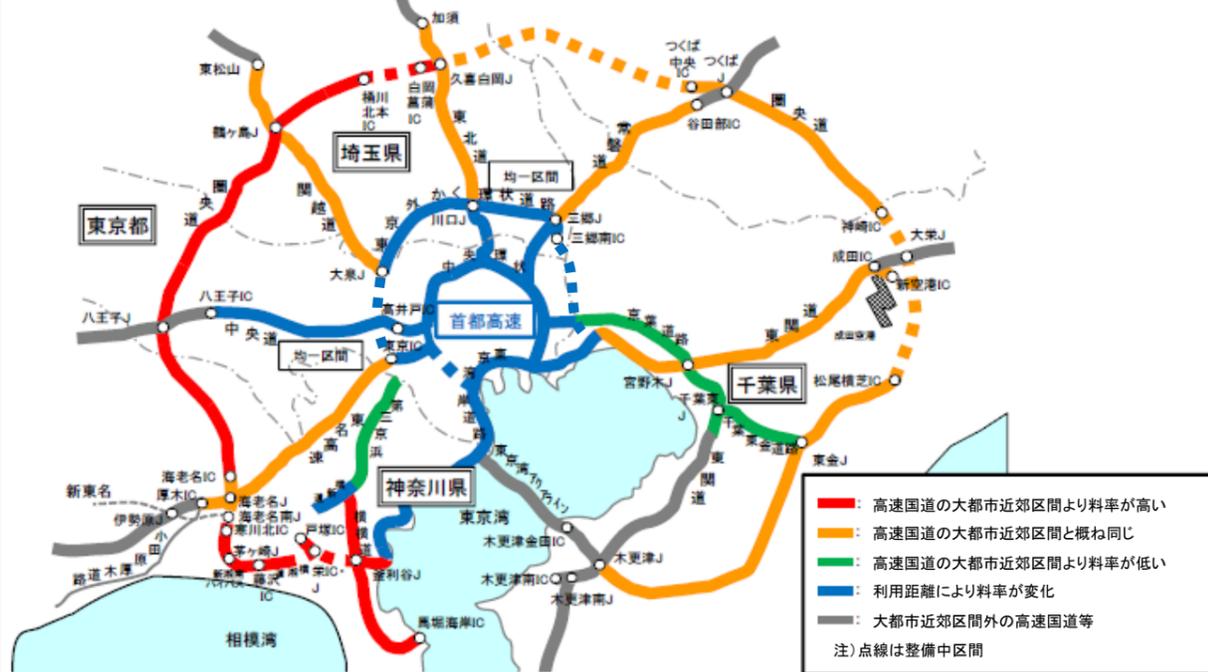
首都圏の高速道路網の利用を最適化する料金体系の構築について

第66回九都県市首脳会議
平成26年11月12日
千葉県市

現状・課題

- ①利用者にとって分かりにくい複雑な料金設定
- ②中央環状線や外環道よりも圏央道等の料金水準が高い
- ➡首都圏の高速道路網の機能が十分に発揮されないおそれ

【首都圏内の料金水準の現状】



背景

社会資本整備審議会道路分科会 国土幹線道路部会
中間答申(平成25年6月25日) 抜粋

【目指すべき方向性】

- シームレスな料金体系
- 都心部の通過交通の抑制

【取り組むべき施策】

- 環状道路利用の促進
- ICTの開発・導入等

国土交通省 新たな高速道路料金に関する基本方針
(平成25年12月20日) 抜粋

【シームレスな料金体系による高速道路の効率的なイメージ】

- 均一料金区間などに起因する経路による料金差を排除し、料金体系をシームレスなものに整理
- 混雑時間帯において、ITを利用した情報提供や、渋滞している経路の料金割増、容量に余裕のある経路の料金割引などにより、「世界一効率的な利用」を実現

要望

①首都圏全体での一体的で利用しやすいシームレスな料金体系の構築

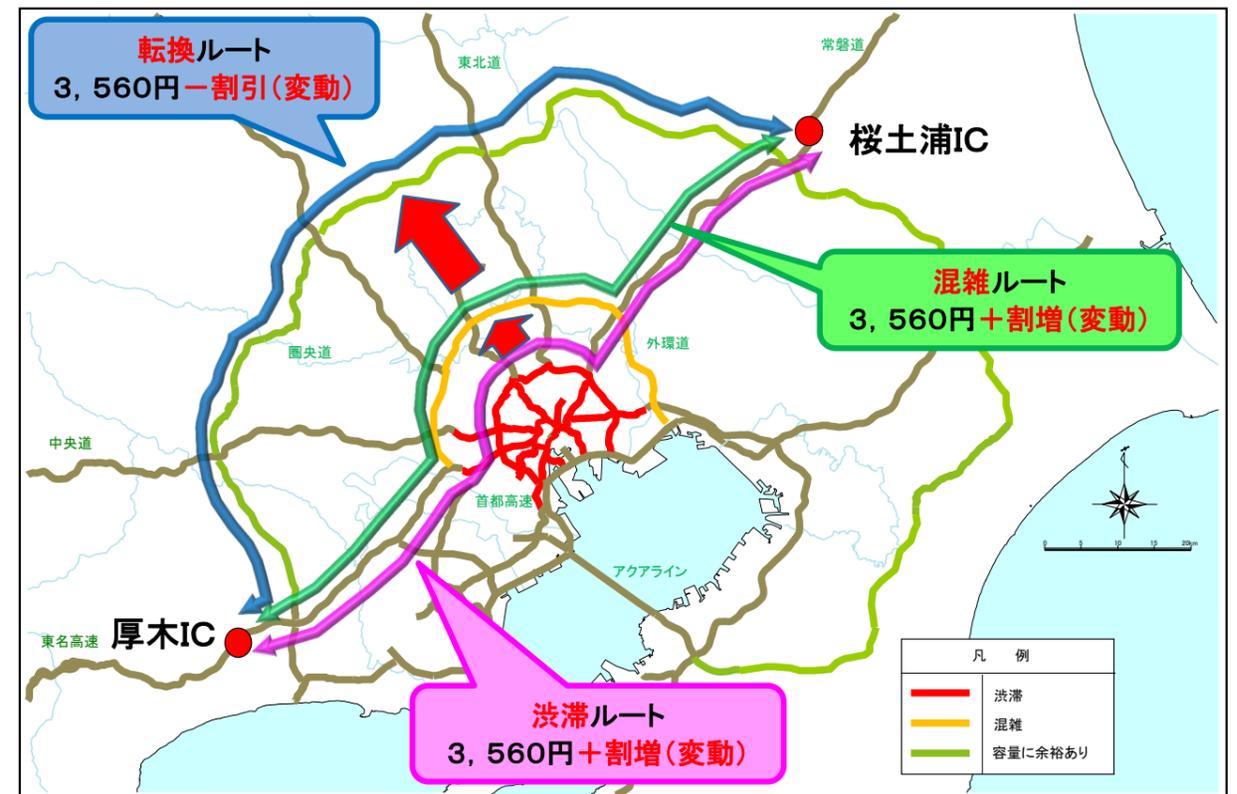
②新たな料金体系の構築にあたっては、ICTの活用を積極的に推進

ICTの活用による弾力的な料金変動のイメージ

【シームレスな料金の仮定】

経路による料金差を排除した料金をシームレスな料金(同一発着同一料金)と仮定

- 東名高速厚木IC～常磐道桜土浦ICは、首都高速中央環状線ルートでの現行料金3,560円をシームレスな料金と設定した場合



・道路の混雑状況

- 精度の高い交通渋滞予測
- 弾力的に料金を変動

・環状道路の利用促進
・通過交通の分散化

ICTの活用により、円滑かつ柔軟な交通流動の実現